



台北微風廣場での催事

アジアビジネスを  
レポート!

# 京都クロス Asia

京都からアジアに進出し活躍  
する企業と、アジアビジネス  
相談デスクアドバイザーから  
アジア各国を紹介します。

## 今回は・・・ 台湾進出企業 REPORT

株式会社 谷商店  
代表取締役 都築 建吾



所在地：京都市伏見区下鳥羽南柳長町75  
TEL: 075-621-4433  
事業内容：京都の伝統的食品および全国  
名産品(卸)(小)

### 活力京都有限公司

所在地：台湾台北市信義区11052基隆路二段51号14楼  
設立：2012年9月  
事業内容：京都の食品ならびに名産品(買)(卸)

### 仕組みをうまく利用して

以前は、全国の食品を京都市内中心に販売するため各地で仕入を行っていました。全国を回る中で京都への関心の高さを知り、5年前に京都の食品を府外に販売する事業を立ち上げました。さらに、上海への訪問を契機として中国に京都のものを販売したいと考えるようになりました。しかし、大手商社からは、「食品関係で中小企業が中国大陸に進出することは難しい。」

台湾や香港に進出し、そのコネクションで中国大陸に進出したほうが良い」というアドバイスをもらいました。そこで調査したところ、台湾企業と連携し中国で成功

している企業が多かったことから、台湾に現地法人を設立することになりました。

台湾の会社には、駐在員・現地採用社員はいません。人材の派遣や採用は、費用対効果が見合ったときに考えることとし、すべて外部に委託しています。現地会社の会計は会計業務をサポートする会社に、営業はパートナーシップ契約を結んだ台湾企業に任せています。そして私自身が両者の最終決定者として管理をしています。日本からの輸送は、我が社が台湾へ進出した同時期に台湾現地の日本料理店へ商品を送る際に便乗させてもらうこととなりました。こうして小ロットでも定期的に商品を送ることができ、現地の高級スーパーや日本料理店でも我が社の商品を取り扱ってもらうことができました。

### ニッチな分野で先手を打つ

食品関係の中小企業が海外進出することは容易でないと思います。TPPが締結されると同時に大手商社が一気に現地に参入し、市場を牛耳っていくことが予想されます。この中で残っていくには、ただだけに販路を押さえるかにかかっていきます。京都ブランドの食品を扱うというニッチな分野で先手を打ち、大手企業ができない隙間で勝負します。

我が社の海外での販売は、まだまだ国内の売り上げに及びませんが、夢があります。昨年には東山・高台寺の協力のもと台湾と香港で催事を行い京都のPRも行いました。現在ではわれわれの持つ日本と現地の会社を窓口として、京都企業10社程度の販売のお手伝いをしています。食品商社として継続的な営業と販路拡大を使命としながら、観光も絡めた新たな事業展開を考えています。

私が紹介!



### ●アジアビジネス相談デスクアドバイザー●

日本通運株式会社 京都支店 次長  
山崎 一隆

### 食品輸出のポイント

近年、日本の農産品や食材は、台湾、香港、シンガポールを中心にアジアへと販路を拡大しつつあります。安倍政権も2020年までに農産品輸出額を1兆円規模に高めるとの方針を打ち出しており、この勢いはますます加速していくものと思われます。そこで、増加する果物の

台湾輸出を取り上げ、手続きのポイントをご紹介します。

まずは「植物検疫証明書」の取扱いが第一のポイントです。日本側では植物防疫所で「植物検疫証明書」を発行してもらいます。現地台湾側では、事前に動植物検疫所へ輸入貨物の検疫申請をします。同時に輸入食品検査弁法に基づき経済部標準検査局に対して輸入検査の申請を行い残留農薬などの確認をおこなう必要があります。その他、台湾の「食品衛生管理法」に基づいて食品検査登録を経て食品輸入許可を得ること、またラベル表示や関税率についても注意する必要があります。こうしたポイントを確実に進めることが大切です。

アジアビジネス相談デスク 専門アドバイザーによる個別相談室です。お気軽にご利用ください。

お申込み・お問合せ 本所 アジアビジネス相談デスク (産業振興部内)

TEL : 075-212-6442

URL <http://www.kyo.or.jp/management/asiabusiness.html>